



大賞作品

First Prize

『^{おも}想いひとつ』

A Thought for the Forests

^{くさ} ^{かど}
草門 あずま

Azuma Kusakado

Page 1・2



春 森のわかばの中で、しんこきゅうする。
なんども なんども、しんこきゅうする。
体じゅうの細胞が、うきうき、よろこびはじめたよ。
「はふーっ。くすぐったいほど、いい気分」

Page 5・6



秋 森のおちばの上で、トゥルル ラララ
いろんな色やかたちにかこまれて、だれだって、
すきな歌を うたいたくなるよ。
「きつと、イグアナドンだって、ごきげんだったはずさ」

Page 3・4



夏 森のせせらぎで、おどりたくなる。
目をつぶって、耳をすませば、40億年くりかえす、
生命の音が、聞こえてくるよ。
「ふしぎ…あつというまに、タイムスリップだ」

Page 7・8



冬 森から宇宙の星をみあげて、考えてみる。
いっしょうけんめい考えてみる。
この森をのこすのも、のこさないのも、^{おも}想いひとつ。
「そう、ひとりひとりの ^{おも}想いひとつなんだ！」